

プレスリリース

The Museum of Modern Art, Saitama

ジャック＝アンリ・ラルティエグ

幸せの瞬間をつかまえて

Jacques Henri Lartigue: Capturing Moments of Joy

2016年4月5日(火)～5月22日(日)

埼玉県立近代美術館

子どもの頃から生涯にわたって、新鮮でユニークな視点の写真を撮り続けたフランスのアマチュア写真家、ジャック＝アンリ・ラルティエグ(1894-1986)の回顧展を開催します。

裕福な家庭に生まれたラルティエグが父親からカメラを与えられたのは、7歳の時でした。幸せな瞬間を残していける、カメラという新しい“魔法の機械”に夢中になったラルティエグは、日々の生活のあらゆることを写真に切りとってアルバムに収めました。なかでも、スポーツやジャンプ、自動車、飛行機といった様々な動きをとらえることへのひとときわ高い関心や、心霊写真のような写真ならではの表現へのあくなき探求心は、ユニークで鋭い視点の作品を生み出しました。また、家族や友人、恋人の幸せに満ちたすがたを愛情深くとらえた作品も多く残しています。

ラルティエグは自分の楽しみのために写真を撮っていましたが、1962年、68歳の時、アメリカ旅行中に立ち寄ったニューヨークで、作品がニューヨーク近代美術館の写真部長の目にとまりました。そして翌年個展が開催されると、ベルエポックのフランスを独自の視点で切り取った写真がアメリカで高く評価され、やがて世界中で知られるようになりました。

この展覧会では、子ども時代から晩年までの代表的な作品と、その多くが日本初公開であるカラー作品など約160点を通して、写真を楽しみ、過ぎ行く時間や人生の喜びをつかまえようとしたラルティエグの世界を紹介します。

展示構成

I プロローグ

ラルティエグはフランスの裕福な家庭に生まれ、新しい技術に並々ならぬ関心と情熱を注いだ祖父や父の血を受け継ぎました。写真を愛好していた父の作品やラルティエグが初めて撮影した作品を通して、アマチュア写真家・ラルティエグが生まれた原点を紹介します。



II 小さな探求心

わずか7歳で自分のカメラを手に入れたラルティエグは、幸せの瞬間すべてを永遠に残すべく、日常のあらゆることを毎日カメラにおさめました。家族や友人が階段から飛び降りる瞬間や疾走する自動車、兄が制作した飛行機、二重露出を利用した心霊写真など、撮影の対象は様々でした。新しい技術への関心や動くものの一瞬をとらえる実験精神、写真ならではの表現に対する探求心によって生み出された、少年時代のユニークな視点の作品を紹介します。



III 人生のアルバム

少年時代の好奇心のままに写真を愛し続けたラルティエグの人生を、子ども時代から晩年までの作品を通してたどります。ラルティエグは生涯、家族や友人、恋人と過ごす幸福な時間そのものを被写体とし、愛情に満ちた写真を他でもない自分自身のために残しました。アマチュアを貫いたラルティエグの素直な視線がうつしだす、最先端のファッション、スポーツ、映画など時代の様相も見どころです。



IV 色彩の歓び

この章ではラルティエグのカラー写真の中から、1920年代のオートクローム作品、そして1950年代から晩年にかけての作品を紹介します。特に後期のカラー写真は、その多くが日本初公開となります。ローライフレックスで撮影されたこれらの作品は、妻と過ごす時間や旅先の風景を鮮麗であたたかな色彩でうつしとり、モノクロの作品とはまた異なる新鮮な輝きを放っています。



Photographie Jacques Henri Lartigue © Ministère de la Culture - France/AAJHL

* 都合により展示内容を一部変更することがあります。

◆ジャック＝アンリ・ラルティエグ(1894-1986) プロフィール

1894年6月13日、フランスの裕福な家庭に生まれる。1900年、6歳の頃から父親の手ほどきで写真を撮り始める。7歳のときに自分のカメラを与えられ、それ以来、毎日のように写真を撮影する一方、日記をつけるようになる。1915年、アカデミー・ジュリアンで絵画を学ぶ。1934年頃、ファッション雑誌のイラストレーションを手がける。1963年、ニューヨーク近代美術館で個展を開催。1966年、写真集『ファミリー・アルバム』を刊行、世界中にその作品が知られるようになる。1979年、全ての写真作品、135冊のアルバム、日記をフランス政府に寄贈。1986年、レジオン・ドヌール勲章オフィシエを受章。同年ニースで死去。

関連の催し

◆スペシャル・トーク「幸せの瞬間をつかまえて—ラルティエグと堀内誠一」

日時:5月5日(木・祝) 15:00~16:30(開場は30分前) / 場所:2階講堂 / 定員:100名(当日先着順) / 料金:無料 / ゲスト:堀内花子 / 内容:デザイナー・堀内誠一の長女で、自身もラルティエグの写真集の翻訳に携わった堀内花子さんから、ラルティエグを愛してやまなかったという堀内誠一のエピソードなどをお聞きます。

◆ミュージアム・コンサート「うつりゆく日々、とどめおく光」

日時:4月29日(金・祝)14:30~15:30(開場は30分前) / 場所:地下センターホール / 定員:60名(当日先着順) / 料金:無料 / 出演者:サキソフォビア(緑川英徳、竹内直、岡淳、井上JuJu博之) / 内容:1998年に結成された、個性派サックス奏者による珍しい編成のジャズカルテットが、音によるダイアリーをお届けします。

◆映画上映会「ボゾール王の冒険」

日時:4月24日(日) 11:00~(開場は30分前) / 場所:2階講堂 / 定員:100名(当日先着順) / 料金:無料 / 監督=アレクシス・グラノフスキー、1933年、フランス、68分、モノクロ、DVDによる上映 / 内容:フランスで大流行した通俗小説を原作としたコメディ映画で、ラルティエグがスチール写真を撮影しています。 / フランス語での上映になります(字幕なし、あらすじを配布、上映前に解説あり)。

◆担当学芸員によるギャラリー・トーク

日時:4月16日(土)、5月7日(土)各日とも15:00から30分程度 / 場所:2階展示室 / 料金:企画展観覧料が必要です。

■ご希望のグループに「ジャック=アンリ・ラルティエグ 幸せの瞬間をつかまえて」の見どころをご案内します(予約制)。お問い合わせ・ご予約は、電話 048-824-0110 教育・広報担当まで。

EXHIBITION DATA

- 1 会期 平成28年4月5日(火)~5月22日(日) 休館日:月曜日(5月2日は開館)
- 2 開館時間 午前10時~午後5時30分(展示室への入場は閉館の30分前まで)
- 3 観覧料 一般1000円(800円)、大高生800円(640円) ()内は20名以上の団体料金。
※中学生以下と障害者手帳をご提示の方(付き添いの方1名を含む)はいずれも無料です。
※併せてMOMASコレクション(1階展示室)もご覧いただけます。
- 4 会場案内 埼玉県立近代美術館 〒330-0061 さいたま市浦和区常盤9-30-1 Tel. 048-824-0111
JR京浜東北線北浦和駅西口より徒歩3分(北浦和公園内。JR東京駅、新宿駅から北浦和駅までそれぞれ約35分)。当館に専用駐車場はありませんが、提携駐車場「三井のリパーク 埼玉県立近代美術館東」では駐車料金の割引があります(企画展観覧で300円引き、MOMASコレクション観覧で100円引き)。団体バスは事前にご相談ください。お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたします。ただし台数に限りがありますので予めご了承ください。
- 5 主催 埼玉県立近代美術館
- 6 後援 在日フランス大使館 / アンスティチュ・フランセ日本
- 7 特別協力 ジャック=アンリ・ラルティエグ財団
- 8 協力 富士フィルムイメージングシステムズ株式会社、JR東日本大宮支社、FM NACK5
- 9 企画協力 コンタクト
- 10 問い合わせ 埼玉県立近代美術館 担当: 嶋原、大越
広報・写真に関するお問い合わせ: 落合 kouhou@aria.ocn.ne.jp
Tel: 048-824-0111(代表)、048-824-0110(学芸) Fax: 048-824-0118



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦

ジャック=アンリ・ラルティエグ

① 《レーシングカー「ドラージュ」、A.C.F.グランプリ ル・トレポー》1912年6月26日

② 《スージー・ヴェルノン ロワイヤン》1926年9月

③ 《ダニとミションとボビー、フリポール・クラブにて カヌ》1936年5月

④ 《ぼく（パパ撮影） ボン・ド・ラルシュ》1903年

⑤ 《ピビ、「エデン・ロック」のレストランにて アンティープ岬》1920年5月

⑥ 《フロレット ヴァンス》1954年5月

⑦ 《ブルターニュ》1965年

各作品クレジット：

Photographie Jacques Henri Lartigue © Ministère de la Culture - France/AAJHL

- 写真はデータにて提供いたします。ご請求はメールで、kouhou@aria.ocn.ne.jp（広報担当・落合）まで。
- 写真を掲載する場合、作品名等のデータ、クレジット（上記）を記載してください。また作品部分のトリミング、文字載せなどはないようにお願いいたします。
- 掲載誌を1部、広報担当までお送りください。